

団 体 名	クッチャロ湖等保全対策協議会
事 業 名	持続可能な環境教育の取り組みについて～KODOMOラムサール湿地交流 in 浜頓別～

【開催目的】

2016 年は、浜頓別町の開村 100 周年・町制施行 65 周年の記念すべき年となりました。クッチャロ湖の水環境の保全に取り組む本協議会は、次の 100 年へ保全活動がつながるように地域住民や各種団体の協力を得ながら、湿地で活動する子ども達を地域全体で育てる事を目的に「KODOMO ラムサール」を開催しました。

【KODOMOラムサール湿地交流 in 浜頓別】

8 月 5-7 日の開催に向けて、本協議会は、地元団体やラムサールセンター、日本国際湿地保全連合と実行委員会を設立しました。事前会議を重ねて、生まれて初めて、北海道やクッチャロ湖に来る子ども達へ本町で何を見せて体験してもらうか真剣に議論し、各団体で体験プログラムを考案し、解説を行っていただきました（写真 1）。



写真 1

本番 1 日目、劇団シンデレラによる環境ミュージカルを見学し、各地の子ども達が活動発表をしました。アイスブレイクも兼ねた「北海道湿っちカルタ大会」も行われ、地元高校の校長先生による星空解説を行っていただきました。

2 日目、ベニヤ原生花園・頓別漁港・砂金公園・牧場見学・クッチャロ湖の漁業・カヌーなどの自然体験に参加し（写真 2）、その後、子ども達は、KODOMO 会議を行いグループディスカッションで浜頓別町の宝を選び、夜遅くまでイラストの作成とメッセージを考てくれました（写真 3）。



写真 2



写真 3

3日目、子ども達は、各グループの宝を発表し、全体でお宝ポスター、メッセージを完成させました（写真4）。地元の子ども達から、町長へ完成したポスターを贈呈しました。



写真4

【成果・まとめ】

国内 11ヶ所の湿地から、32名の子ども（小学4～6年）が集まりました。一般公開には、1日目に約200名、3日目に約150名の住民が集まりました。子ども達は、浜頓別町の宝を次のとおり選んでくれました（写真5）。

○ベニヤ原生花園 ○自然を守る心 ○星空 ○砂金 ○クッチャロ湖 ○自然のバランス

また、メッセージは、参加した子ども達全員の意見が一致して、次のとおり決まりました。

「ありがとうキセキと宝と感動を命輝く浜頓別 ～ぼくらと一緒にさがそう ここにしかない宝を～」



写真5

各団体とも趣向を凝らして子ども達の受入れを行ってくれました。子ども達の発表で、普段あたりまえにある地域の宝に気づかされました。

本事業は、単に子ども達の交流という事では無く、地域を巻き込むことによって、新たな気づきや地域間の交流が生まれました。8月27-29日に鳥取県米子市で開催された「ラムサールシンポジウム2016 in 中海・宍道湖」でポスター発表を行い、300名を超える湿地関係者へ紹介する事もできました。また、10月14日には、「振り返りの会」を開催して、携わった各団体で成果を共有した事で、今後の子ども達の育成事業への理解も深まりました。

北海道e-水プロジェクトの助成を頂いた事で、本事業が開催でき、持続可能な環境教育・まちづくり・水環境の保全が進められる事となり、感謝申し上げます。

クッチャロ湖等保全対策協議会